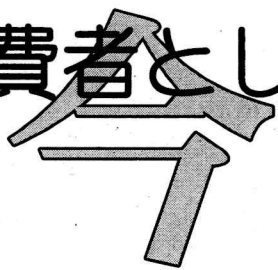


# 消費者として



(一社)健康・省エネ住宅を  
推進する国民会議

理事長 上原 裕之

## 寒い家に住むことによる 高齢者の介護を防ぎたい！

日本主婦連の皆様には、度以下の住宅は家主に国が「閉鎖命令」「改修命令」を出せます。それゆえ、英国では冬になると、保健省が室温を18度以上保つように国民にTVやインターネットで訴えます。

日本でもそのような訴えを国がしているのを見ることが無いと思います。それを行うには日本国内で「寒い家と健康の関係調査が必要」という国の調査が必要になります。

フィンランドでは、「常時21度を維持できない住宅」は人の住む環境と国がみなさないようにです。

また、多くの先進国では最低室温を18度以上が多々、英国では賃貸で10度以下の住宅は家主に国が「閉鎖命令」「改修命令」を出せます。それゆえ、英国では冬になると、保健省が室温を18度以上保つように国民にTVやインターネットで訴えます。

日本でもそのような訴えを国がしているのを見ることが無いと思います。それを行うには日本国内で「寒い家と健康の関係調査が必要」という国の調査が必要になります。

そこで、我々国民会議は、住宅と健康の関係を調査、そして結果温かくなる必要があれば、着衣、スリッパの活用、お金を掛けない窓対策から始めて、補助金を活用し始めるだけお金のかけられない改修までアドバイスさせていただきます。

置かせていただき「寒い部屋の状態の血圧と意識して温かくした状態の血圧測定」等を行います。「温かい家が高血圧等による事故を減らせる可能性がある」ことを皆様の家と体で調べるといふ事業です。

皆様の主治医と、国民会議が医学、建築の知識を研修を行い、会社としても信頼できる建築のプロをつないで皆様の住宅の調査、そして結果温かくなる必要があれば、着衣、スリッパの活用、お金を掛けない窓対策から始めて、補助金を活用し始めるだけお金のかけられない改修までアドバイスさせていただきます。

### ～断熱改修等による居住者の健康への影響調査 中間報告(第3回)～

- 得られたデータに基づき検証を行ったところ、住宅の室内環境が血圧など健康関連事象に与える影響について、以下の得られつつある知見が確認された。
1. 室温が年間を通じて安定している住宅では、居住者の血圧の季節差が顕著に小さい。
  2. 居住者の血圧は、部屋間の温度差が大きく、床近傍の室温が低い住宅で有意に高い。
  3. 断熱改修後に、居住者の起床時の最高血圧が有意に低下。
  4. 室温が低い家では、コレステロール値が基準範囲を超える人、心電図の異常所見がある人が有意に多い。
  5. 就寝前の室温が低い住宅ほど、過活動膀胱症状を有する人が有意に多い。断熱改修後に就寝前居間室温が上昇した住宅では、過活動膀胱症状が有意に緩和。
  6. 床近傍の室温が低い住宅では、様々な疾病・症状を有する人が有意に多い。
  7. 断熱改修に伴う室温上昇によって暖房習慣が変化した住宅では、住宅内身体活動時間が有意に増加。

※国土交通省オフィシャルサイト 報道発表資料より抜粋  
[http://www.mlit.go.jp/report/press/house07\\_hh\\_000198.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/house07_hh_000198.html)

スでできるようにしたいとを長くして人生を謳歌し、介護費や家族の負担を減らす可能性に投資するのかが選択する時代が近い将来やってくると思っています。

私は、1993年自ら「健康長寿」の時代を長くして人生を謳歌し、介護費や家族の負担を減らす可能性に投資するのかが選択する時代が近い将来やってくると思っています。

25年以上取り組む「歯科医師」です。

住宅関係者でありませんが、これまでお伝えしたことは本当に医療関係者としての視点での提案です。またこの考えは、日本医師会の関係者にもご支持いただいております。

自分の体を守るのには、国でも医師でもなく「皆さんの知識と食生活、運動、そして住環境」です。

まずは皆さん、部屋が暑すぎる時、寒すぎる時の血圧を測りください。そうすれば私の言うことに偽りがないとお分かりいただけると確信しております。